QUALIFYING PRACTICE
OFFICIAL REPORT

野左根航汰がJSB1000初ポールポジション!
立ちはだかる絶対王者・中須賀克行
巻き返したい津田拓也、高橋裕紀、渡辺一馬、高橋巧

全日本ロードレース選手権は、今回の、もてぎ2&4レースからシリーズ後半戦に突入。2011年から始まった、もてぎ2&4レースは、J-GP2クラス(2012、2013年はJ-GP3も開催)が開催されてきたが、今回は、初めて最高峰クラスのJSB1000クラスが行われている。鈴鹿8耐から3週間後だけに、多くのチームは疲れを取る時間もなく、今回のレースウイークを迎えている。

金曜日の走行は、1本目はドライ、2本目はウエットとなったが、どちらのセッションも野左根航汰がトップタイムをマークした。「走り始めから、すごくフィーリングがよかったですし、チームも最高の対応をしてくれているので、やりやすいですね。やっぱりココがボクのホームチームという感じがしました」とコメント。今年は、世界耐久選手権にYART-YAMAHAの一員として参戦。ヨーロッパラウンドでは、そのインに極端に身体を落とすライディングフォームが話題を呼んだ。先の鈴鹿8耐でもチームを引っ張る走りで5位に入っている。世界耐久でもブリヂストンの17インチタイヤを使っており違和感なく今回のウイークに入れたこと、さらに、ヤマハのワークスチームで自分自身の好みに合わせられるマシンで走れることが野左根の好調の原因だと言っていいだろう。

対して、第5戦オートポリスで苦悩の末、勝利を手に入れ鈴鹿8耐で3連覇を達成したヤマハのエースである中須賀克行は、違和感を感じていた。それは鈴鹿8耐で使用した16.5インチタイヤとの特性の違いが原因だった。今シーズンより全日本は17インチに統一されたが、鈴鹿8耐は、今年まで16.5インチが使用可能だった。ヤマハファクトリーは実績のあるものを鈴鹿8耐で選んだこともあり、その乗り換えに苦労していた。それは、同じく鈴鹿8耐で16.5インチを選んだKawasaki Team GREENの渡辺一馬も一緒だったが、ヨシムラの津田拓也は、それほど気にならなかったと語った。

今シーズン序盤に苦戦した中須賀にとって、今回はある程度想定していたことであり、好調なチームメイトの走りを見ながら、自分自身に取り入れていくことを考えていた。公式予選Q1では、野左根をピタリとマークし、その走りを分析したと言う。対して好調な野左根は、Q3でトップタイムをマークし、JSB1000クラスで初ポールポジションを獲得した。「6月の第4戦ツインリンクもてぎでは、トップを走っていた中須賀選手が最終ラップに不運な転倒があって勝つことができましたが、今回は、しっかり戦って勝ちたいですね。もちろん簡単に勝てるとは決して思っていませんし、全力でぶつかって行きます」と語れば、予選2番手につけた中須賀は「全力で倒しに行く」と真っ向勝負の覚悟だ。

予選で1-2を占めたヤマハファクトリーについて行き、最後に前に出たいのがフロントロウ最後の3番手につけた津田だろう。今年フルモデルチェンジして登場したSUZUKI GSX-R1000Rだが、なかなか思うように開発が進んでいなかった。その中で、津田が着実にレースを完走してきたことで、前半戦を終えた時点で暫定ランキングトップにつける結果となっている。まずは、1勝を挙げたいところだ。

Hondaのエースであり高橋巧は、予選6番手と今ひとつ波に乗れていない。鈴鹿8耐では、17インチタイヤを使っており、その流れで今回のレースに臨めているがタイムが出ていないのは、ニューマシンならではの悩みなのかもしれない。鈴鹿8耐で見せたカワサキをストレートでかわす爆発的なパワーを速さにつなげたいところだろう。

Hondaの最上位となる4番手には、モリワキの高橋裕紀がつけている。チームメイトの清成龍一もQ2を勝ち抜きQ3で9番手と3列目からスタートする。地元の渡辺は、5番手に入り2列目からカワサキのエースとして優勝を目指す。藤田拓也は、Q3で転倒を喫したがケガはなく7番手。山口辰也が8番手、Q3に進出する健闘を見せた酒井大作が10番手となった。以下、浦本修充、加賀山就臣、濱原颯道、秋吉耕佑、近藤湧也、後半戦から参加の今野由寛と続いた。

タイトル争いは、津田をトップに、渡辺が1ポイント差、高橋巧が3ポイント差と接戦。23周で争われる決勝レース。天気が気になるところだが、野左根、中須賀のヤマハファクトリー勢がレースをリードすることは間違いないだろう。これに津田、高橋裕紀、渡辺、高橋巧が、どこまでついていけるかによってレース展開が見えてくるはずだ。最終ラップのビクトリーコーナーをトップで立ち上がってくるのは、ゼッケン5か? 1か? それとも??

Text:Toshihiro Sato / Photo : H.wakita & T.Sato / Issued by SUPERBIKE.JP

JSB 1000 All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE
RESULT & INTERVIEW

公式予選結果

●予選：天候／曇　路面／ドライ　出走31台
●決勝レース スタート／10:25（23周）

Pos.	No.	Rider	Type	Team	Best Time
1	5	野左根 航汰	YZF-R1	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5	1'48.794
2	1	中須賀 克行	YZF-R1	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	1'48.959
3	12	津田 拓也	GSX-R1000R	ヨシムラスズキMOTUL	1'49.145
4	72	高橋 裕紀	CBR1000RR	MORIWAKI MOTUL RACING	1'49.385
5	23	渡辺 一馬	ZX-10RR	Kawasaki Team GREEN	1'49.731
6	634	高橋 巧	CBR1000RR SP2	MuSASHi RT HARC-PRO. Honda	1'49.984
7	9	藤田 拓哉	YZF-R1	YAMALUBE RACING TEAM	1'50.090
8	104	山口 辰也	CBR1000RR SP2	TOHO Racing	1'50.348
9	88	清成 龍一	CBR1000RR	MORIWAKI MOTUL RACING	1'50.671
10	39	酒井 大作	S1000RR	Team Motorrad39	1'51.073
以上Q3にて決定:					
11	94	浦本 修充	GSX−R1000	Team KAGAYAMA	1'50.861
12	71	加賀山 就臣	GSX−R1000	Team KAGAYAMA	1'51.253
13	50	濱原 颯道	GSX-R1000R	ヨシムラスズキMOTUL	1'51.513
14	090	秋吉 耕佑	CBR1000RR	au & テルル・Kohara RT	1'51.629
15	18	近藤 湧也	YZF-R1	JOYNET GBSレーシングYAMAHA	1'51.809
16	32	今野 由寛	GSX-R1000	MotoMapSUPPLY FA	1'51.816
17	85	中冨 伸一	YZF-R1	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	1'52.121
18	47	上和田 拓海	YZF-R1	Webike チームノリックヤマハ	1'52.363
19	46	松﨑 克哉	ZX-10RR	Kawasaki Team GREEN	1'52.535
20	34	岡村 光矩	ZX-10RR	KRP三陽工業&RS-ITOH	1'53.663
21	13	中津原 尚宏	CBR1000RR	オートテクニックスポーツPGR	1'53.851
22	16	児玉 勇太	S1000RR	TONE RT SYNCEDGE 4413	1'55.027
23	91	柴田 義将	YZF-R1	リリカ AMENA	1'55.308
24	43	須貝 義行	RSV4 RF	チームスガイレーシングジャパン	1'55.785
25	41	樋口 耕太	GSX-R1000	H.L.O RACING	1'56.462
26	73	大貫 貴彦	CBR1000RR	ロケットケロタン&ネオラグーナ	1'58.127
以上Q2にて決定:					
以上予選通過車両:					
27	49	原田 洋孝	ZX-10R	RS-ガレージハラダ姫路	1'57.878
28	89	吉広 光	CBR1000RR	CLUBNEXT&MOTOBUM	1'58.469
29	77	佐藤 直之	S1000RR	オムステンレス&スターワークス+STR	1'59.343
30	70	佐藤 慎一郎	GSX-R1000	佐藤家レーシング	1'59.571
	080	渥美 心	CBR1000RR	UQ & テルル・Kohara RT	計測できず

参加台数 31 台　　出走台数 31 台
予選通過基準タイム（ 108 % ） 1'57.865
※注：タイムは、Q1〜Q3まで、それぞれ対応するセッションでのタイム順です。

ポールポジション：1'48.794
#5　野左根 航汰　YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5

『初めてJSB1000クラスでポールポジションを獲得できて、素直にうれしいです。アタックラップは、あそこまでタイムが出るとは、思っていなかったのですが、うまく決まってよかったです。Q3では、残り時間も少なかったので、ひたすら毎周攻めていました。もちろんポールポジションは、意識していました。前回のツインリンクもてぎでは、中須賀選手が転倒しての優勝だったので、今回は、簡単なことではないですが最後までしっかり戦って勝ちたいですね』

予選2番手：1'48.959
#1　中須賀 克行　YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『17インチへの乗り換えに手こずっていたのは事実ですが、野左根選手は、うまく乗れているので、いいところを取り入れて行こうと努力しています。予選で負けたことは、素直に悔しいですが、チーム的には1-2なので、いい結果だと思います。6月のレースよりもタイムは出ていませんが、フィーリングは戻って来ていますし、今度こそ1-2フィニッシュしたいですね。もちろんボクが前ですけれど（笑）』

予選3番手：1'49.145
#12　津田 拓也　ヨシムラスズキMOTUL

『予選で一番を獲ってやろうという思いは、もちろんありましたが、レースに向けて確認しておきたいことがあったので、優先順位の高い方を取りました。マシンは、目に見える変化はありませんが、鈴鹿8耐で進化しましたし、制御面がよくなったのでバイクのレベルが上がったと思います。そろそろヤマハさんを倒したいですし、いつもトップを獲ってやろうと思っています。それを実現するためにも全力でレースに挑みます』

INFORMATION

RIDE & DRIVE　全てのモータースポーツファンに向けてレースをお届けします！

全日本ロードレース全戦が無料BS放送のBS12（番組名「RIDE&DRIVE」で放送されます！ 放送時間はレース6日後の土曜日、27:00〜27:54
★詳しい放映スケジュール等はファンサイトで！

■全日本ロードレース選手権第6戦もてぎ2&4レース放映スケジュール
8月26日（土）　27:00〜27:54

BS12 TwellV

インターネットライブ中継&動画配信も充実!!
MFJ Live CHANNEL
サーキットの場内監視（ポスト）映像に外部カメラ映像をプラスし、「MFJライブチャンネル」にて配信。中継配信がより充実しました。※通信環境によりディレイ配信となる場合もあります

YouTube　YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → http://superbike.jp/